

厚生労働科学研究費補助金研究事業の概要

研究事業（研究事業中の分野名）：痴呆・骨折臨床研究事業 ※1

所管課：老健局総務課（計画課・老人保健課）

予算額（平成16年度）： 637,667千円

①研究事業の目的

地域医療との連携を重視しつつ、先端的科学の研究を重点的に振興するとともに、その成果を活用し、予防と治療成績の向上を果たすための総合的な戦略である「メディカル・フロンティア戦略」の一環として、痴呆及び骨折について、より効果的な保健、医療及び介護技術を確立するための臨床研究等を推進するものであり、その実施については長寿科学総合研究事業とも十分連携を図ることとしている。

②課題採択・資金配分の全般的状況

15年度採択課題一覧（別紙参照）

課題採択の留意事項等：事前評価委員会において、学術的・行政的見地からの評価を行い、行政諸施策のサービス提供や臨床への応用が可能な研究等、痴呆及び骨折について、より効果的かつ効率的な予防、診断、治療、リハビリテーション及び介護等を確立するための臨床研究を重点的に採択することとしている。

③研究成果及びその他の効果

痴呆分野においては、新たな治療薬の開発の端緒が築かれ、早期発見のための画像診断や臨床的スクリーニング手法が開発されるとともに、痴呆の進展予防のための介入評価が実施されている。これらは痴呆診療や介護に関するガイドラインや痴呆介護従事者の研修事業にも反映されている。

また骨折分野においては、骨粗鬆症の病態解明に加え、骨折や脳卒中に伴う急性期からのリハビリテーションと回復期のリハビリテーションの連携システムに関する研究が進むとともに、転倒予防や転倒時に骨折リスクを軽減させる装具の普及について大きな成果がみられた。

④行政施策との関連性・事業の目的に対する達成度

メディカル・フロンティア戦略のみならず、ゴールドプラン21、老人保健事業や介護保険制度等の行政施策と連動しつつ研究成果がこれらの施策に反映され、本研究事業の目的が十分達成されつつあるが、痴呆高齢者介護や脳卒中の急性期医療など今後さらなる進展を図る必要のある分野もあり、今後の研究の促進が期待される。

⑤課題と今後の方向性

本研究事業は痴呆と骨折（一部脳卒中を含む）について医学的分野から社会科学的分野まで幅広い領域カバーする臨床研究であり、厚生労働行政への応用や、臨床等の実際のサービス提供への応用が可能な研究に重点をおいて総合的見地から課題採択及び評価を行っており、今後もこの方向性を推進していくこ

とが重要である。一方で、長寿科学研究と同様に医学的分野と社会科学的分野の均衡ある評価及び資金配分が難しくなっている。

今後は、メディカル・フロンティア戦略の新たな方向性を見据えつつ、老年医学の進展及び介護保険制度等の見直しの動きと十分連動し、均衡ある高齢者の保健医療技術の向上と介護や高齢者政策の進展に資するよう、長寿科学総合研究事業と併せ本研究事業のあり方を検討する必要がある。

⑥研究事業の総合評価

本研究事業における痴呆及び骨折に関する総合的な研究成果が、メディカル・フロンティア戦略全体の進展に貢献し、併せて高齢者保健医療、介護・看護技術、保健福祉政策及び社会科学の進展に大きく寄与してきた。今後とも本研究事業を通じて、長寿科学に関する研究が、保健・医療・福祉の全般にわたり我が国の厚生科学において重要な役割を果たすことが期待される。

※1：平成15年度においては、効果的医療技術の確立推進臨床研究事業（痴呆・骨折臨床研究分野）として実施。

平成15年度効果的医療技術の確立推進臨床研究事業(痴呆・骨折臨床研究分野)(継続)

NO.	研究分野名	開始	終了	主任研究者	フリガナ	所属施設	職名	研究課題名
1	痴呆	13	15	児玉 桂子	コタマケイコ	日本社会事業大学社会福祉学部	教授	痴呆性高齢者にふさわしい生活環境に関する研究
2	痴呆	13	15	武田 雅俊	タケタマサシ	大阪大学大学院医学系研究科神経機能医学	教授	アルツハイマー病生物学的診断マーカーの確立に関する臨床研究
3	痴呆	13	15	朝田 隆	アサタタカシ	筑波大学臨床医学系	教授	痴呆性疾患の危険因子と予防介入
4	痴呆	13	15	植木 彰	ウエキアキラ	自治医科大学附属大宮医療センター神経内科	教授	栄養学的介入による痴呆の予防・治療システム
5	痴呆	13	15	斎藤 正彦	サイトウマサヒコ	慶成会老年学研究所	主任研究員	痴呆性高齢者の権利擁護
6	痴呆	13	15	新井 平伊	アライヘイ	順天堂大学医学部	教授	アルツハイマー病の医療手順に関する総合的調査研究
7	痴呆	13	15	今井 幸充	イマイユキミチ	日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科	教授	痴呆性高齢者を対象とした新規在宅支援サービスの開発
8	痴呆	13	15	丸山 和佳子	マルヤマワカコ	国立療養所中部病院長寿医療研究センター(老化機構研究部生化学・代謝研究室)	室長	アルツハイマー病に対する経口投与可能な神経保護薬の開発:ミトコンドリアにおける細胞死シグナル制御の試み
9	痴呆	13	15	遠藤 英俊	エントウヒデシ	国立療養所中部病院内科	内科医長	一般病床における痴呆性高齢者のクリティカルパスの作成に関する研究
10	骨折	13	15	高岡 邦夫	タカオカクニオ	大阪市立大学医学部整形外科	教授	高齢者の転倒と骨粗鬆症に伴う骨折の予防を目的とした疫学的環境医学的治療学的研究
11	骨折	13	15	成富 博章	ナリトミヒロアキ	国立循環器病センター内科脳血管部門	部長	脳磁図を用いた高齢者平衡機能障害の診断と機序解明および転倒予防に関する研究
12	骨折	13	15	中土 幸男	ナカツチユキオ	国立長野病院整形外科	医長	大腿骨頸部骨折発生におけるマイクロクラック集積の影響と超音波およびプロテクターの骨折予防効果に関する基礎的研究
13	骨折	13	15	米田 幸雄	ヨネタユキオ	金沢大学大学院自然科学研究科	教授	骨細胞再生を基礎とする骨及び関節疾患治療薬の開発研究
14	骨折	13	15	宮井 一郎	ミヤイイチロウ	特定医療法人大道会ボハース記念病院神経リハビリテーション研究部	部長	脳卒中による機能障害及び能力障害の治療及び訓練に関する研究
15	骨折	13	15	石橋 英明	イシハシヒデアキ	東京都老人医療センター整形外科	医長	多施設による大腿骨頸部骨折の長期機能予後および生命予後に対する在宅リハビリテーションによる介入効果の検討
16	骨折	13	15	千野 直一	チノナオイチ	慶応義塾大学医学部リハビリテーション学教室	教授	脳卒中による機能障害及び能力障害の治療及び訓練に関する研究-維持期におけるリハビリテーション医療とその効果
17	骨折	13	15	大川 弥生	オオカワヤヨイ	国立療養所中部病院長寿医療研究センター老人ケア研究部	部長	病棟・居室棟でのリハビリテーションと施設設備に関する研究 -脳卒中と骨折の共通点と相違点を含めて-
18	骨折	13	15	鳥羽 研二	トリハケンジ	杏林大学医学部高齢者学教室	教授	寝たきりプロセスの解明と主たる因子に対する介入効果に関する研究
19	骨折	13	15	高田 和子	タカタカスコ	国立健康・栄養研究所健康増進部	主任研究員	虚弱高齢者を対象とした運動及び栄養指導に関する介入研究